

さわや書店フェザン店では今、「文庫 X の歌」を売っています。曲のタイトルではありません。そう呼んでいる CD を売っています。



始まりは今年の4月でした。

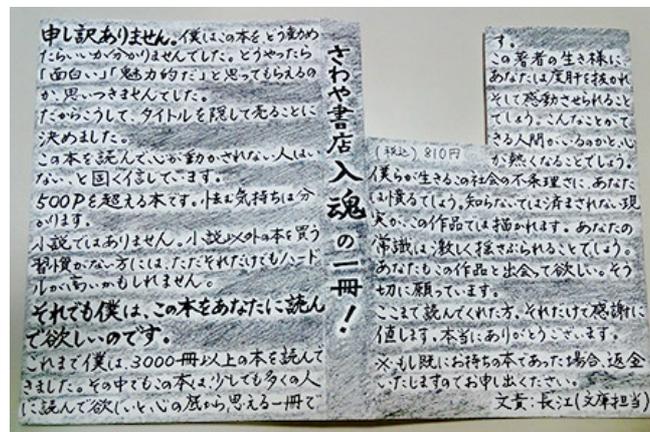
【「文庫 X」を読んで書いた曲です】

そう書かれた手紙と共に、一枚の CD が送られてきたのです。驚きました。それはまさに、「文庫 X の歌」と呼びたくなるほどに、「文庫 X」の世界観を凝縮したような歌だったからです。

さわや書店の HP まで来てくれる方は、「文庫 X」のことをもうご存知かもしれませんが、一応説明しておきます。



去年の7月、さわや書店フェザン店の店頭に謎の文庫本が並びました。「文庫 X」と名づけられたその本は、字がびっしりと敷き詰められたオリジナルのカバーを巻いた上からビニール掛けされた状態で売られていて、買う前には「値段」「ページ数」「小説ではないこと」の3つの情報しか分かりませんでした。



この「文庫 X」は、さわや書店フェザン店だけでスタートしましたが、徐々に全国の書店に広がりました。最終的には 650 以上の書店で展開され、中身が「殺人犯はそこにいる」(清水潔 新潮文庫)だと明らかになってからも売れ続けています。現時点で 30 万部以上という、ノンフィクションとしては驚異的な売上を記録しています。

「殺人犯はそこにいる」は、北関東で連続して起こった幼女誘拐殺人事件を扱った作品です。半径 10 キロの狭い範囲内で同様の事件が 5 件も起きている。別々の事件だと思われる

ていた 5 つの事件を同一犯によるものと著者は仮定するのですが、その仮説には致命的な欠陥がありました。5 件の内の 1 件は、既に犯人が逮捕されているのです。著者は、さらに仮定を重ねました。「足利事件」として知られているこの事件は、もしかしたら冤罪ではないのか。壮絶な取材の果てに「足利事件」の冤罪を証明した著者は、さらに真犯人まで指摘してみせませんが……。そこには、現代日本社会が抱える大きな闇が横たわっており、連続殺人犯と思しき人物が今なお野放しにされているという現実を浮き彫りにしていきます。

CD を送ってくれた女性(僕たちは「歌手 X」と呼んでいます)は、母親の出身が群馬県だったというきっかけから「殺人犯はそこにいる」という作品を手にとったそうです。一読し、彼女はそのあまりの現実に打ちのめされました。幼い命が犠牲になっていること、無実のまま 17 年半も収監された人物がいたことに憤り、また著者が執念によって、そのままでは埋もれてしまったであろう信じがたい事実を掘り起こしていく過程に心を動かされました。

読み終わった彼女は、自分の感情を整理するために曲を作ったそうです。自分の気持ちを吐き出すようにと曲を作り始めた彼女は、しかし次第に、同じように哀しみを背負っている人の支えになるような曲を作りたいと思うようになっていきました。

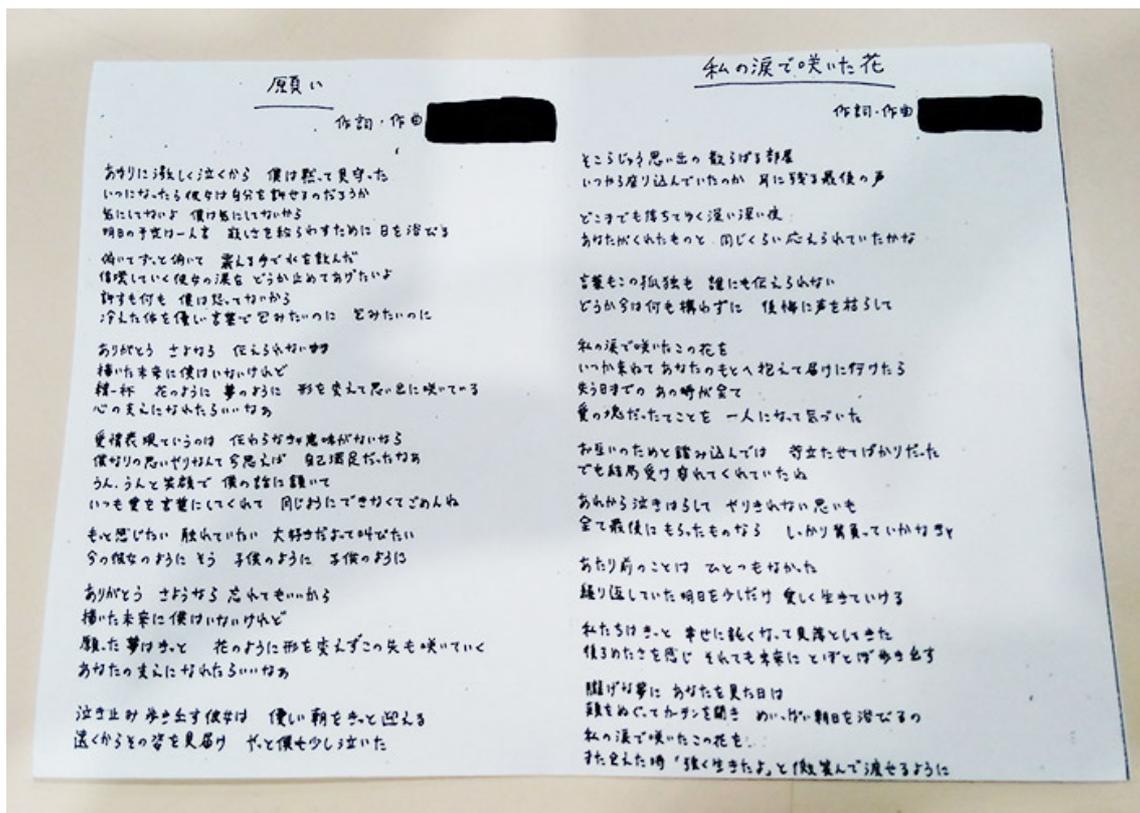
とはいえ、本当であればこの歌は、誰にも聞かれることがないはずでした。誰かに聴いてもらうために作った曲ではなかったからです。彼女の気持ちに変化が生まれたのは、「文庫 X」という本の存在を知ったことがきっかけでした。

自分が心を揺さぶられた「殺人犯はそこにいる」という作品を「文庫 X」という形で広めようとしている本屋がある。そのことを知った彼女は、さわや書店の人には聴いてもらいたいと思うようになりました。

僕らの元に届いた歌は、そういう風にして生まれたものでした。



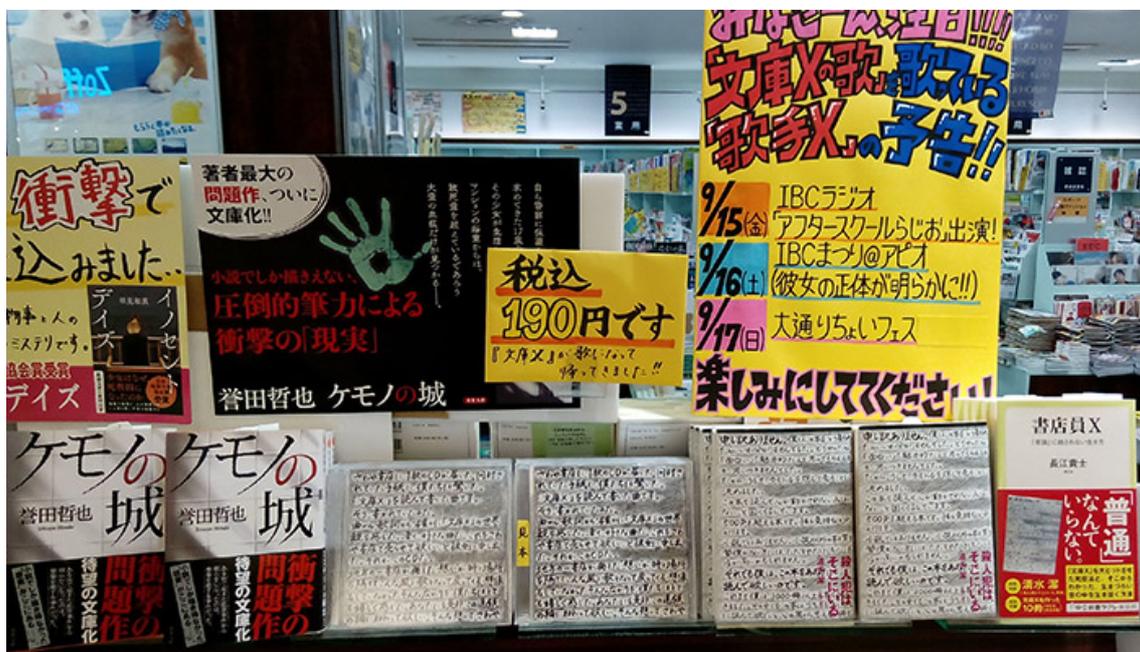
僕たちはその曲を聴いて、本当に驚きました。力強い歌声で歌われるその歌からは、溢れるような想いを感じました。「文庫 X」を読んでいる方は当然、この歌の世界観を直接的に感じ取れることでしょう。でもこの歌は、辛い経験や記憶を忘れたり捨てたりするのではなく、それらを抱えたままで生きる覚悟を得るまでの葛藤や苦悩を描き出しているのだと思います。「文庫 X」を読んでもいなくても、前に一歩踏み出していくための勇気をもたらえる歌だと思います。



僕たちが驚いたのは、歌に対してだけではありませんでした。CD には、「歌手 X」の資料（これまでにインディーズで販売した CD など）も同封されていたのですが、彼女の写真を見て、歌声との差にびっくりさせられました。彼女のことを先に知ってしまえば、歌を聴いてもらえなくなるかもしれない。僕たちはそう判断して、「歌手名を伏せてこの曲を売らせてもらえないか？」と彼女に打診してみました。

その申し出に、彼女はとても驚いたようです。そして、不安にもなりました。多くの人に聴いてもらうつもりで作った歌ではない。そのことが彼女を躊躇させました。そういう意味では、僕らが提示した「歌手名を伏せて」というやり方は、彼女の抵抗感を減らす効果があったようです。さわや書店フェザン店で売れることを、了承してもらえました。

僕らは、「文庫 X」の時のようなジャケットをアルバイトの子に書いてもらい、「文庫 X の歌」として彼女の CD を売り出すことにしました。今年の 5 月 26 日のことです。8 月末の時点で 300 枚以上も売れています。



彼女の想い、そしてさわや書店の想いが連鎖していくようにして、「文庫 X の歌」は多くの人に聴いてもらえる機会を得ることになりました。

9 月 16 日（土）に、彼女は「歌手 X」として「IBC まつり 2017@アピオ」に出演することが決定しました。そこで彼女の正体が明らかになります。前日の 9 月 15 日（金）には、IBC ラジオ「松原友希のアフタースクールらじお」に、そして 9 月 17 日（日）には「盛岡大通ちよいフェス」に出演することが決まっています。

「文庫 X」は、盛岡を震源地として全国へと広まっていきました。その「文庫 X」をきっかけとして生まれ、様々な人の想いが連鎖することで徐々に広がりを見せている「文庫 X の歌」を聴いて、改めて「文庫 X」に手を伸ばす一。そんな方が一人でも多くいてくれたら、「文庫 X」を始めた書店として、とても嬉しく思います。